

音楽科

① 音楽科でつけてほしい力

音楽を学習することには、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽を聴いたり、音楽を作ったりするなどの活動があります。しかし、これらは本当の学習のねらいではありません。これらの活動を通して、音楽を好きになり、感動を分かち合い、豊かな心の持ち主になることが本当のねらいなのです。感受性の強いこの時期だからこそ、音楽の学習を通して、自分の心によい刺激をたくさん与え、豊かな情操を身につけてほしいと思います。

② 授業の受け方

「心を耳を目を開こう」



○ 心を開こう

音楽は心のメッセージです。作品には作曲家の、演奏には演奏者のメッセージが入っています。自分の心を開かなければメッセージは伝わりませんし、自分のメッセージも伝えることはできません。「難しそう」「つまらなそう」ではなく、「やってみよう」「おもしろそう」と心を開きましょう。

○ 耳を開こう

音楽は音でメッセージを伝えるものです。心を開いたら、耳で音楽を受け取って下さい。当たり前ですが、意外と楽譜から音楽のメッセージを受け取ろうとする人が多かったです。その楽譜が苦手だということで心を開かず人が多いのです。しっかりと耳を開いて、これから学習する音楽を受け止めましょう。

○ 目を開こう

心と耳で受けとめただけでは音楽を楽しんだだけです。音楽を学習するには、その音楽を楽しむ要素に目を開くことが大切です。ある曲を歌ったり、聴いたりして感動しても、その何に感動したのかが分からなければ音楽を学習したことはありません。

豊かな表現を求めて工夫する事柄や、感動を深めるために学習する事柄のほとんどは目で確認できるものなのです。心と耳を開いて受け止めた音楽を、最後に目を開くことで学習として定着させて下さい。

○ 音楽を苦手と感じている人へ

音楽は実技教科ですから、得手不得手は確かにあります。しかし、無理なことをしているわけではないのです。「下手でもいい。気持ちの伝わる音楽を！」これを忘れずに、のびのびと自分を表現しましょう。

③ さらに力をのばすには

- いろいろなジャンルの音楽を聴きましょう。できればただ聴くだけでなく、どこの音楽かとか特徴とか何の音か、など考える時間があればいいと思います。
- 楽譜が分かるようになりましょう。楽譜にはいろいろなメッセージが込められています。楽譜が読めるようになると、更に音楽活動が広がるでしょう。

